

平成 23 年度 高等学校家庭科教育におけるキャリア教育・職業教育のあり方に関する調査研究

《概 要》

全国高等学校長協会家庭部会は、平成 23 年度に 60 周年の節目を迎えるにあたり、これまで実施してきた各調査研究委員会の成果を踏まえ、横断的かつ包括的な調査研究を、平成 22 年度・23 年度の 2 年間の計画で実施した。

その背景には、4 つの調査研究委員会（専門教育・普通教育・進路・技術検定）における研究が、平成 21 年度末でそれぞれのテーマで終了したこと。折しも平成 21 年 7 月 30 日に中央教育審議会から「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」を報告され、翌 22 年 5 月 17 日には「第二次審議経過報告」、さらには、23 年 1 月 31 日に最終答申が公表された。ここで示されている高等学校教育としての課題は、従前より本部会の各研究委員会において今後の課題としてきた研究内容と一致していることなどがある。また、60 周年を機に各調査研究委員会を横断する研究テーマを掲げ、包括的な調査研究を実施することは、本部会の調査研究の課題を整理し、今後の高等学校における家庭科教育の在り方を探ることであり、本部会の一層の充実と活性化に結びつくものと考えらる。

そこで、「高等学校家庭科におけるキャリア教育・職業教育の在り方」を研究主題とし、キャリア教育・職業教育の現状と意識に関して、生徒並びに家庭科教員対象のアンケート調査を実施するとともに、社会的・職業的自立に繋がる職業意識の醸成にかかわって、家庭に関する学科卒業生を対象とする、質問紙と面接による「ケーススタディ調査」を実施した。

平成22年度に家庭部会代表理事や会員校のご協力を得て実施した家庭学科・総合学科・普通科の生徒並びに家庭科教員対象のアンケート調査から、キャリア教育・職業教育の現状と意識について把握するとともに、生徒対象のアンケート調査と家庭科教師対象のアンケート調査との関連について考察した。

一方「ケーススタディ調査」から、社会的・職業的自立に繋がる職業意識の醸成について考察をするとともに、量的調査と「ケーススタディ調査」との関連を探るなどして、高等学校家庭科におけるキャリア教育・職業教育の在り方について最終提言としてまとめた。

ご覧いただきご教示いただければ幸甚である。